令和７年度　学　校　評　価　【　計　画　書　・　報　告　書　】

加賀市立河南小学校　校長　三星　由紀子　印

学校教育ビジョン	〈めざす児童像〉	〈めざす教師像〉
◎校訓　「信」 ◎学校教育目標 私もみんなも幸せになる河南小 ～幸せな未来を拓く子の育成～ ◎重点目標 「あいがい～っぱいあふれる学校」	○「自分で」「自分から」行動できる子 ○夢や目標に向かって挑戦し続ける子 ○おあしすの心にあふれる子	○レボリューション！（変化を恐れず挑戦し続ける） ○えみＦＵＬＬ！（笑顔いっぱい） ○コラボレーション！（みんなの良さを集結）

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策（最終）
①教育課程・学習指導	委ねる授業づくりを通して、個の確かな学力の定着を図る。	・習熟度別プリント等の個別最適な学習環境を整える。 ・ノート指導を通して、学習用語や既習漢字を正しく用いて学びをまとめる力の向上を図る。	教務	これまでの取組により、基礎学力が少しずつ向上し、自分の考えを述べることができる児童も増えた。基礎学力の定着と、学習用語を正しく用いて論立てて説明する力の向上をねらいたい。	（成果指標） 個の確かな学力が身についている。	国語・算数の単元評価テストでの平均点が80点以上の児童が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	単元評価テストでの平均点（1・2学期末）で評価する。	B	C	単元評価テストで平均80点以上とれた児童は67%だった。個の学びを支える取組により、国語・算数ともに、R5から着実に平均到達率は伸びている。一方で、到達率が80%に満たない児童は1学期に比べて増えた。どの児童も取り残すことなく十分な力をつけるための手立てがより一層必要である。学習が苦手な児童も学びに向かえるような授業づくりと個別支援をさらに充実させていきたい。
	自律した学び手として、自分の学びを自己調整しながら主体的に学ぶ児童を育てる。	児童が問いをもち、粘り強く課題を解決していけるような単元設計、授業作りを行う。児童と教科や学び方の目標を共有し、振り返る。	研究	学習の「はなまるスタイル」が定着し、学び方のめあてに向かって学習に取り組んでいる。しかし、学び方を振り返り学びを自己調整していく力が弱い。	（成果指標） 自律した学び手となり、学習に取り組んでいる。	「？の解決に向けて、自分で考え、粘り強く取り組んだ」と答えた児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	児童アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	B	肯定的回答が89%だった。児童が自律した学び手となって学習していけるように、学び集会や学び方カードの実践、単元構想の工夫、環境デザインなどに取り組んできた。児童と目指す姿だけでなく方法なども共有し、取組がマンネリにならないように進めていく必要がある。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	安心・安全な河南小をめざし、自ら考え行動できる児童を育てる。	おあしすの心を土台とし、生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりをすすめる。	生徒指導	児童同士の言葉遣いやトラブル、いじめについて教職員がチームとして取り組んできた。今後は自分の考えや意見を安心して表現できるよう、生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりをすすめていく必要がある。	（成果指標） 学校が安全で安心できる場所と考えている。	「学校は安心して学べる場所だと思いますか?」に対し肯定的な回答をした児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	児童アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	A	児童アンケートでは、肯定的評価は93%（「安心して学べる」が61%、「どちらかというと安心」が32%）であった。1学期に否定的な回答をしている児童の7割が2学期には肯定的に回答をしていた。これは、チームとして問題行動やいじめに対応できたことや情報を共有できたこと、教職員の中で指導の基準を揃えたことによる対応の結果であると考えられる。ただ、1学期から継続して否定的に回答をしている児童が見られるのも事実である。引き続きチームでの対応や情報共有、生活アンケートを基にした聴き取りを行うなど、児童の困り感をよりキャッチして対応できるようにしていく必要がある。
③キャリア教育・進路指導	夢や目標をもち、様々な行事や活動に積極的に参加し、自主自律の精神と態度を養う。	キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標だけでなく、短期・中期（学期・年間）の目標設定をして振り返る。	キャリア	行事や学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。夢や目標に向かって努力し、達成感を味わえるようにしたい。	（成果指標） 夢や目標をもって、一生懸命取り組んだと感じている。	「夢や目標に向かって、一生懸命取り組んだ」と答えた児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	児童アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	A	肯定的回答が94%で、1学期末より伸びている。授業や行事、学校生活の中で目標を持ち、目標に向かって取り組むことができていた。引き続き、目標を意識させたり、がんばりを認めたりして児童が達成感を味わえるようにしていきたい。
④保健管理	元気の源である歯の健康について理解を深め、歯の健康推進に努める児童を育てる。	食後の歯磨きを奨励するとともに、年2回の歯磨き週間の取組を通して食後の歯磨きなどを習慣化させる。	保健	給食後の歯磨きを毎日できた児童は72%で食後の歯磨きが定着していない。また、歯科治療率が9月時点で40%で歯の治療に対する意識が低い。	（成果指標） 歯みがき週間で給食後に歯みがきをすることができる。	給食後に歯磨きすることができた児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	歯みがき週間（6月・11月）の歯みがきカレンダーの項目から評価する。	B	C	歯みがき週間中、給食後、毎日歯みがきができた児童は73.1%だった。学校保健委員会後のアンケートでは、朝・昼・夜に毎日歯みがきをする児童の割合がそれぞれ増加していたが、継続するのは難しかった。今後は、歯みがきに対する意識を常に持てるよう、歯と口の健康に関する保健指導を行う。
⑤安全管理	児童が日頃から命を守るために適切な判断と行動ができるように、防災への正しい理解や意識の向上を図る。	地域・家庭の連携や防災教室等により、学校内外での防災に対する正しい知識と判断力を身につけさせ、命を守る行動がとれるようにする。	教頭	地震や火災での避難訓練では約9割の児童が命を守る行動ができていると答えているが、どのような災害や状況においても自ら考え、判断して行動できるようにしたい。	（成果指標） 学校内外における災害時の命を守る行動について理解させることができる。	学校や家での災害時の行動がわかり、避難訓練でも正しく行動できたと答える児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	防災教室・避難訓練等を経験後、学期末に児童アンケートを実施し、評価する。	B	A	休み時間の避難の仕方については99%の児童が「わかった」と答え、「お・は・し・も・ち」の約束を守って行動できたと答えた児童は98%であった。実際に、休み時間の避難も慌てず行動することができていた。また、10月の訓練は消防署員指導のもと、煙体験を取り入れたが、今後も火事や災害の際に、どの児童もどこにおいても正しい行動がとれるように計画的指導や訓練計画を立てていくことが大切である。
⑥特別支援教育	全職員で児童の実態把握に努め、個に応じた支援や配慮の充実を図る。	校内特別支援委員会を中心に、専門機関の協力を得ながら、全体や個に応じた支援や配慮を組織的に行う。児童の実態や教職員のニーズに合わせ、研修の場を設ける。	特別支援	児童理解に全職員で取り組んでおり、誰一人取り残さない授業を心がけている。有効な支援について共通理解する場を設定し、よりよい支援につなげたい。	（努力指標） 全体や個に応じた有効な支援に取り組む。	全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が A　100%　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	教職員アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	C	肯定的回答は81．8%であった。2学期は特別支援地域サポート教員に入っていただいたり、より充実した支援体制を組んだことで児童の実態把握をきめ細かにすることができた。アンケートの結果は下がったが、教師が個に応じた支援に対し「もっと良い方法はないか」と考えたり、より広い視野をもって支援をすることができるようになったためである。教師自身の特別支援的な視点が育ってきており、今後は保護者や関係機関と連携し、よりよい支援ができるようにしていきたい。
⑦組織運営・業務改善	教職員の働き方改革を推進し、時間外勤務時間を年360時間以下（月平均30時間以下）をめざす。	マイ定時退校日を設定し、効率的・効果的な働き方を推進する。	教頭	昨年度、1月45h超が年間で6回超が2人、2回が2人、7回以上超過した職員は1人であった。年間360時間以上は3人（約21%）と、令和5年度より若干改善されているが、さらに推進したい。	（努力指標） 超過勤務時間の削減をめざし、設定した「マイ定時退校日」に積極的に定時退勤できる。	月ごとの「マイ定時退校」を職員がどれだけとれたか A　月3回以上とれた職員が8割 B　月2回とれた職員が8割 C　月1回とれた職員が8割 D　月1回もとれなかった	教職員アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	C	B	月2回以上「マイ定時退校」をとれた職員が81．9%であった。9、10月など定時退校が難しい月もあるが、カレンダーにシールを貼った日だけでなく、出張の日は学校に戻らないなど、割り切る意識も定着してきたと思われる。今後も仕事のメリハリを意識するとともに業務の平準化、DX化等により業務の軽減を図りたい。
⑧研修	適切な研修を計画的・意図的に実施し、教職員の資質能力の向上に努める。	県教員総合研修センターのサポート訪問を活用するなど充実した校内研修を年間を通じて実施する。	教務	小規模校であるため、同学年での教材研究ができない。放課後の教材研究する時間を確保し、有効活用できるようにする。	（成果指標） 教師力向上と人材育成を視野に入れた効果的な研修を、積極的に企画・立案・実行し、学んだことを活かす。	校内研修、若プロなどで学んだことが学級経営や授業づくりに役立ったと回答する教員が A　100%　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	教職員アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	A	肯定的回答が100%であった。年間を通して、県研修サポートや教育事務所のサポートを活用し、計画的に研修を行うことができた。今後も児童の実態や職員のニーズに応じた研修を企画し、指導力向上に努めたい。
⑨保護者、地域との連携	家庭や学校運営協議会（コミュニティスクール）との連携を深め、地域の特色や良さを大切にできる学校をめざす。	コドモン、ホームページ等により情報提供を行うとともに、地域教材や地域人材を積極的に取り入れながら、保護者・地域と連携した教育実践を行う。	教頭	昨年度は、外部人材を授業等に積極的に活用できていた。引き続き、外部人材の活用を進めるとともに、教材として活用できる地域の良さ・特色等を開発し、引き継げるようにする。	（成果指標） 外部人材、地域教材などを生かした授業をどの学年でもできるように教材開発や外部連携を行っている。	外部人材や地域に関連した教材を授業等で活用することができた職員が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	職員アンケート（1・2学期末）で評価する。	C	A	90．9%の教職員が肯定的回答であった。2学期は総合的な学習や生活科の学習等において、地域の方に様々なことを教えていただき、協力いただくことができた。また、交流により学びが深まり、生き方・考え方を学ぶ貴重な体験ができた。来年度は、1学期にOJT等で、教職員が地域そのものを知り、地域の良さを学ぶ機会を設けるとよい。
⑩教育環境整備	教職員が授業や業務改善のためにICTを効果的・積極的に活用できるよう、研修や整備を進める。	ICTサポーターやICTヘルパー連携とし、教職員・児童がICTをスムーズに活用できるよう、校内環境を整える。	情報担当	昨年度は、ベネッセやICTサポーターなどの外部人材を授業や研修において積極的に活用することができた。外部人材の力を引き続き活用し、授業や業務改善につなげたい。	（努力指標） ICTサポーターやヘルパーとの連携を図り、効果的に環境整備を図る。	ICTの整備により授業改善や業務改善につながったと感じる職員が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員アンケート（1・2学期末）の項目で評価する。	A	A	職員からの肯定的な回答は90%であり、取組の成果が確認できた。ハッピーポータル以外にも予定表や健康観察をスプレッドシートで一元管理し、共同編集や長期的な計画作成を行うことで、業務の効率化と見通しの共有につながった。今後も、ICTサポータ・ヘルパーとの連携をさらに深め、効果的な環境整備と業務改善を進めていきたい。

学校関係者評価	
	④保健管理については、学校保健委員会での歯科衛生士の講話が大変有効だったことから、児童の意識次第で歯磨き習慣が身につく。給食後の歯磨きで教師や友達による声掛けを積極的に行っていくとともに、家庭と連携し、歯科の受診や朝と夜の歯磨きも定着させる手立てを考えていけるとよい。 ⑨保護者・地域との連携については、学習の補助や環境整備等、学校を支える重要な役割を地域が担うことができた。山中漆器の学習や総湯体験など、この地域ならではの貴重な取組ができた。児童が地域の中で育っていけるよう、地域学習を継続して行っていただきたい。 ⑤安全管理の内容にはないが、学校前横断歩道等、時折児童が危ない渡り方をしていることがある。交通安全についても十分な指導を行ってほしい。登下校中の挨拶は大変良いので、自ら考えて安全な行動や望ましい行動がすすんでできる子を育ててほしい。